

第4期

洲本市地球温暖化対策実行計画

【事務事業編】

令和6年度結果報告書

令和7年7月

洲本市 市民生活部 生活環境課

1 計画の概要

(1) 計画の期間

基準年度：2022（令和4）年度
計画期間：2023（令和5）年度から2027（令和9）年度の5年間

取組みの進捗状況、目標の達成状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行います。

(2) 計画の目標



<算定対象の温室効果ガス>

種類	係数	発生源等
二酸化炭素 (CO2)	1	産業、民生、運輸部門などにおける燃料の燃焼に伴うものが、全温室効果ガスの9割程度を占め、温暖化への影響が大きい。
メタン (CH4)	25	稲作、家畜の腸内発酵などの農業部門から出るものが、半分以上を占め、廃棄物の埋立てからも2~3割を占める。
一酸化二窒素 (N2O)	298	燃料の燃焼に伴うものや農業部門からの排出が、それぞれ3~4割を占める。
ハイドロフルオロカーボン類 (HFCs)	1430	エアゾール製品の噴射剤、自動車用エアコンディショナーや冷蔵庫の冷媒、断熱発泡剤などに使用。

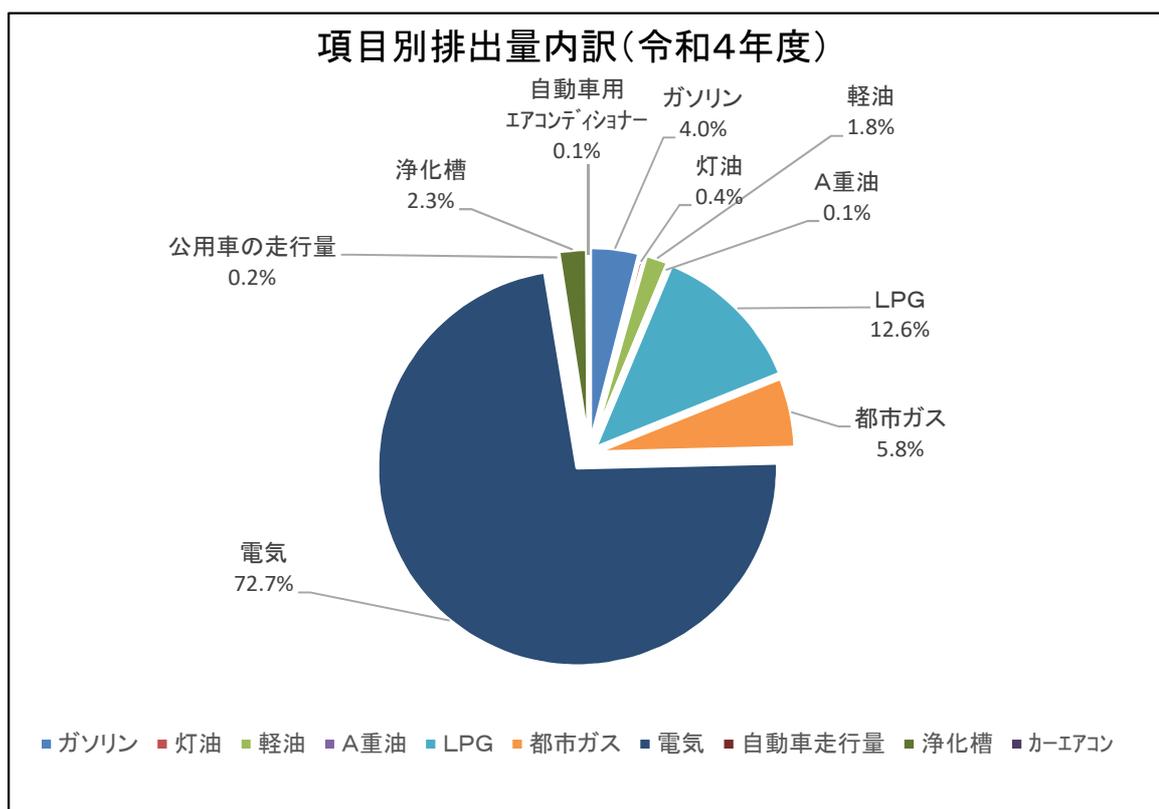
<基準年度の総排出量>

●種類別排出量

ガスの種類	ガス排出量 (kg)	CO2換算排出量 (kg-CO2)	比率 (%)
二酸化炭素 (CO2)	2,671,287.50	2,671,287.50	97.21
メタン (CH4)	1,934.98	48,374.50	1.76
一酸化二窒素 (N2O)	84.62	25,216.76	0.92
ハイドロフルオロカーボン類 (HFCs)	2.06	2,945.80	0.11
合計		2,747,824.56	100.00

●項目別排出量

項目		使用量	単位	排出量	単位
燃料 使用量	ガソリン	47,178.90	L	109,452.80	kg-CO2
	灯油	4,436.00	L	11,045.00	kg-CO2
				1.46	kg-CH4
				0.03	kg-N2O
				50,802.80	kg-CO2
	軽油	19,691.20	L	0.00	kg-N2O
				1,626.00	kg-CO2
	A重油	600.00	L	0.03	kg-N2O
				344,178.90	kg-CO2
	LPG	114,727.00	kg	100.36	kg-CH4
				1.06	kg-N2O
				156,165.80	kg-CO2
都市ガス	70,029.80	m3	75.47	kg-CH4	
			0.83	kg-N2O	
			電気使用量	6,682,368.50	kWh
公用車の走行量	663,480.00	km	8.03	kg-CH4	
			14.64	kg-N2O	
浄化槽による処理量	2,965.60	人	1,749.66	kg-CH4	
			68.03	kg-N2O	
自動車用エアコンディショナー使用台数	206.00	台	2.06	kg-HFC	
総排出量				2,747,824.56	kg-CO2



2 令和6年度 温室効果ガスの排出状況

(1) 種類別の温室効果ガス排出量 [結果] 基準年度比:26.4%削減 前年度比:26.1%削減

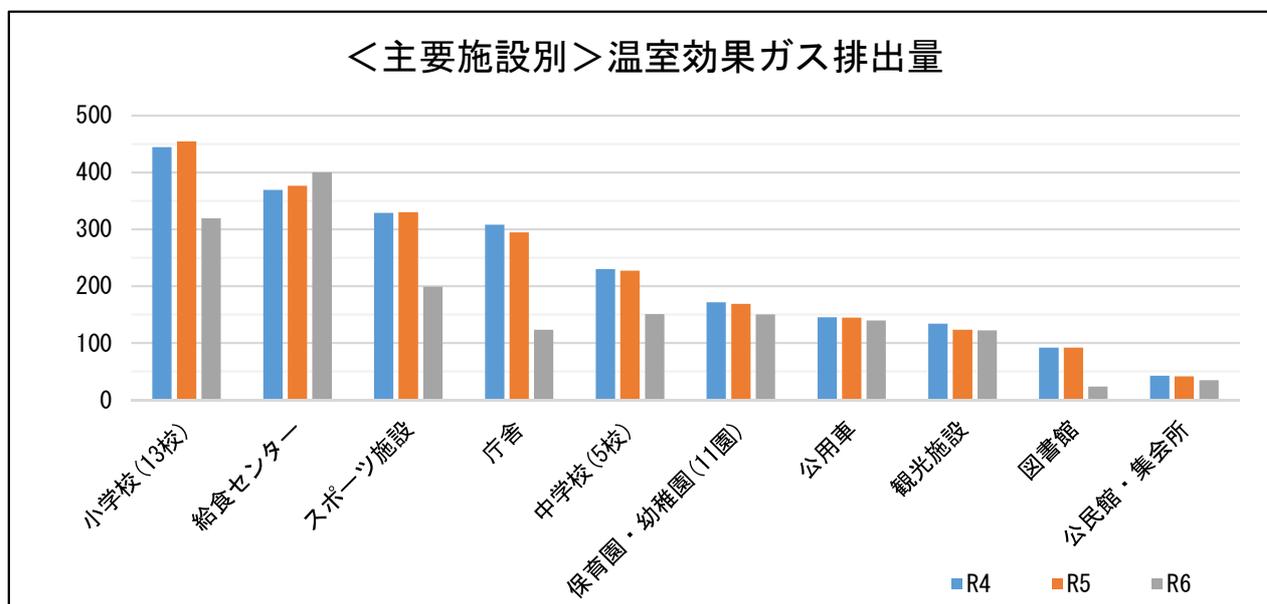
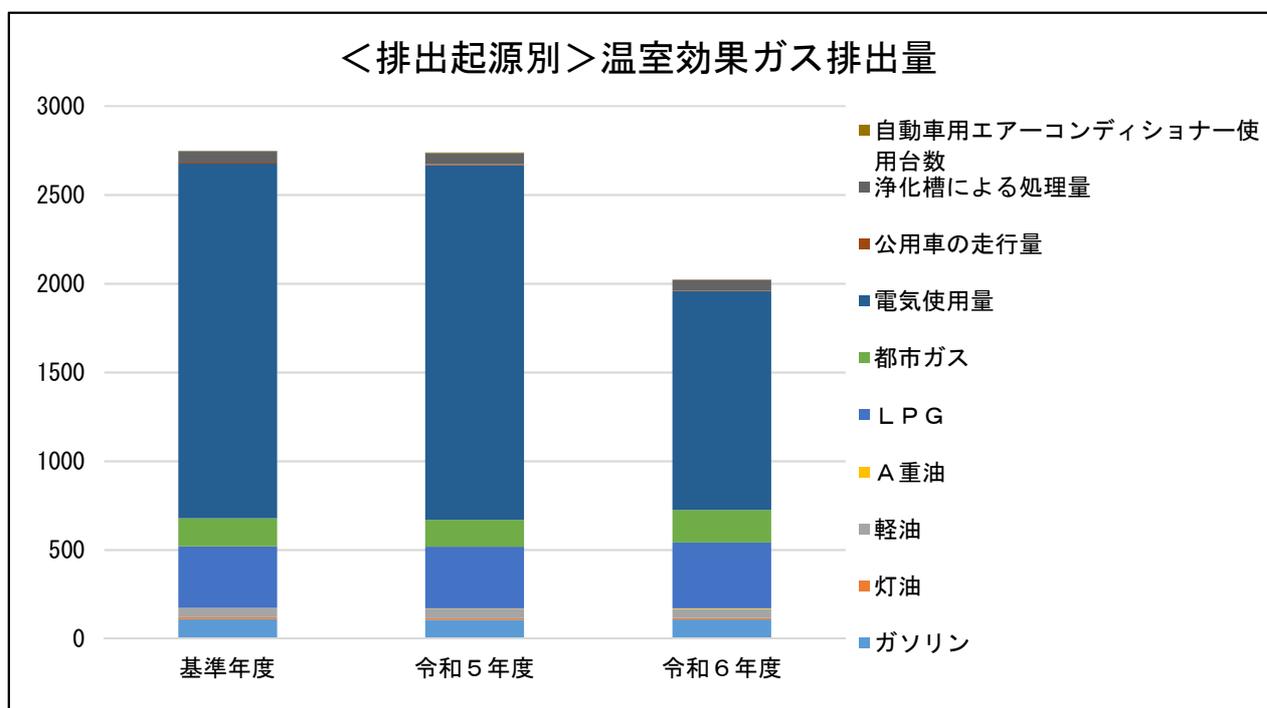
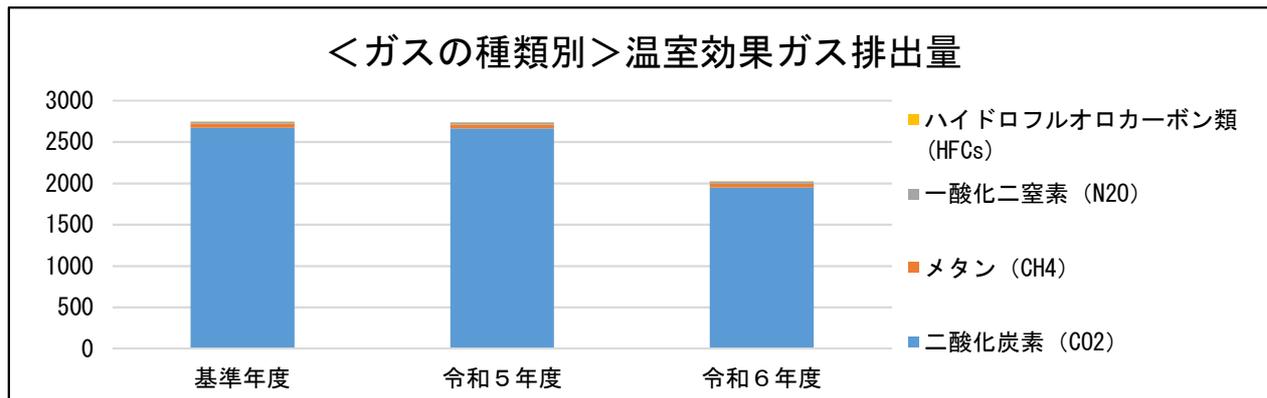
ガスの種類	温室効果ガス排出量 (単位: t-CO2)				
	令和4年度 (基準年度)	令和5年度	令和6年度	基準年度比	前年度比
二酸化炭素 (CO2)	2,671.3	2,661.8	1,949.7	73.0%	73.2%
メタン (CH4)	48.4	48.1	46.6	96.3%	96.9%
一酸化二窒素 (N2O)	25.2	25.3	24.2	96.0%	95.7%
ハイドロフルオロカーボン類(HFCs)	2.9	3.1	3.2	110.3%	103.2%
合計	2,747.8	2,738.3	2,023.7	73.6%	73.9%

(2) 排出起源別の温室効果ガス排出量

排出起源		温室効果ガス排出量 (単位: t-CO2)				
		令和4年度 (基準年度)	令和5年度	令和6年度	基準年度比	前年度比
燃料 使用 量	ガソリン	109.5 4.0%	106.0 3.9%	107.1 5.3%	97.8%	101.0%
	灯油	11.1 0.4%	9.0 0.3%	9.7 0.5%	87.4%	107.8%
	軽油	50.8 1.8%	53.9 2.0%	50.2 2.5%	98.8%	93.1%
	A重油	1.6 0.1%	1.0 0.0%	3.3 0.2%	206.3%	330.0%
	LPG	347.0 12.6%	347.1 12.7%	370.0 18.3%	106.6%	106.6%
	都市ガス	158.3 5.8%	151.4 5.5%	183.3 9.1%	115.8%	121.1%
電気使用量		1,998.0 72.7%	1,998.2 73.0%	1,232.0 60.9%	61.7%	61.7%
公用車の走行量		4.6 0.2%	4.6 0.2%	4.6 0.2%	100.0%	100.0%
浄化槽による処理量		64.0 2.3%	64.0 2.3%	60.3 3.0%	94.2%	94.2%
自動車用エアコンディショナー使用台数		2.9 0.1%	3.1 0.1%	3.2 0.2%	110.3%	103.2%
合計		2,747.8	2,738.3	2,023.7	73.6%	73.9%

(3) 主要施設別の温室効果ガス排出量

施設名	温室効果ガス排出量 (単位: t-CO2)				
	令和4年度 (基準年度)	令和5年度	令和6年度	基準年度比	前年度比
小学校(13校)	444.6	454.4	318.8	71.7%	70.2%
給食センター	369.2	376.3	399.8	108.3%	106.2%
スポーツ施設	328.9	329.8	198.8	60.4%	60.3%
庁舎	308.0	294.4	123.3	40.0%	41.9%
中学校(5校)	229.8	227.2	150.4	65.4%	66.2%
保育園・幼稚園(11園)	171.3	168.8	149.0	87.0%	88.3%
公用車	145.1	144.5	139.4	96.1%	96.5%
観光施設	133.9	122.8	121.8	91.0%	99.2%
図書館	91.8	91.8	22.9	24.9%	24.9%
公民館・集会所	42.3	41.0	34.4	81.3%	83.9%



(4) まとめ

洲本市の事務事業における温室効果ガス排出量は、集計の結果、2,023.7t-CO2となり、基準年度である令和4年度と比較して、26.4%削減できました。

主な削減要因として、電力使用に伴う温室効果ガス排出量が減少していることがあげられます。例年以上の夏季の猛暑や冬季の寒冬のため、エアコン使用に伴う電気使用量が増加しましたが、電力会社との契約電力が大きい施設は令和6年8月より、再生可能エネルギーを活用した電力会社（中部電力ミライズ）からCO2フリー電力を調達したことから、温室効果ガス排出量の削減につながりました。

<排出起源別の増減要因>

項目		基準年度比	増減要因
燃料 使用 量	ガソリン	97.8%	子ども子育て課、消防防災課等で増加しているが、企画課、総務課、農政課等で減少しており、全体では減少となっている。
	灯油	87.4%	五色庁舎、総務課等で増加しているが、健康福祉館、洲本幼稚園等で減少しており、全体では減少となっている。
	軽油	98.8%	総務課、消防防災課等で増加しているが、生活環境課、建設課等で減少しており、全体では減少となっている。
	A重油	206.3%	用地課所管のポンプ場で増加している。 ※A重油の使用は用地課のみ
	L P G	106.6%	五色給食センター・学校等で増加しているが、ビーチハウス等で減少しており、全体では増加となっている。
	都市ガス	115.8%	本庁舎、文化体育館、第二・第三小学校で大きく増加している。
電気使用量		61.7%	上記のとおり
公用車の走行量		100.0%	秘書広報課等で増加しているが、総務課等で減少しており、全体としては増減なし。
浄化槽による処理量		94.2%	鮎原保育所等で増加しているが、市営住宅で減少しており、全体では減少している。
自動車用エアコンディショナー使用台数		110.3%	公用車の台数が増加しているため。 (206台 → 223台)